BAISOKUが提案する

「動力型システム」の考え方と育成方法

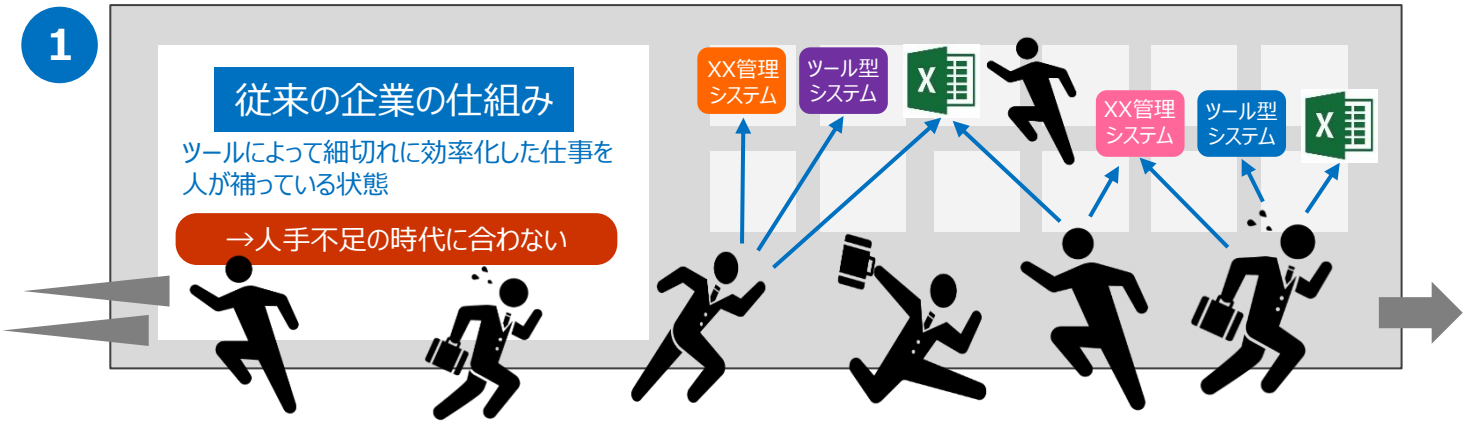
人手不足・働き方改革の時代、
人間の仕事をシステムで自動化し、自走できるシステムを作ることが重要です。

1

従来の企業の仕組み

ツールによって細切れに効率化した仕事を
人が補っている状態

→人手不足の時代に合わない

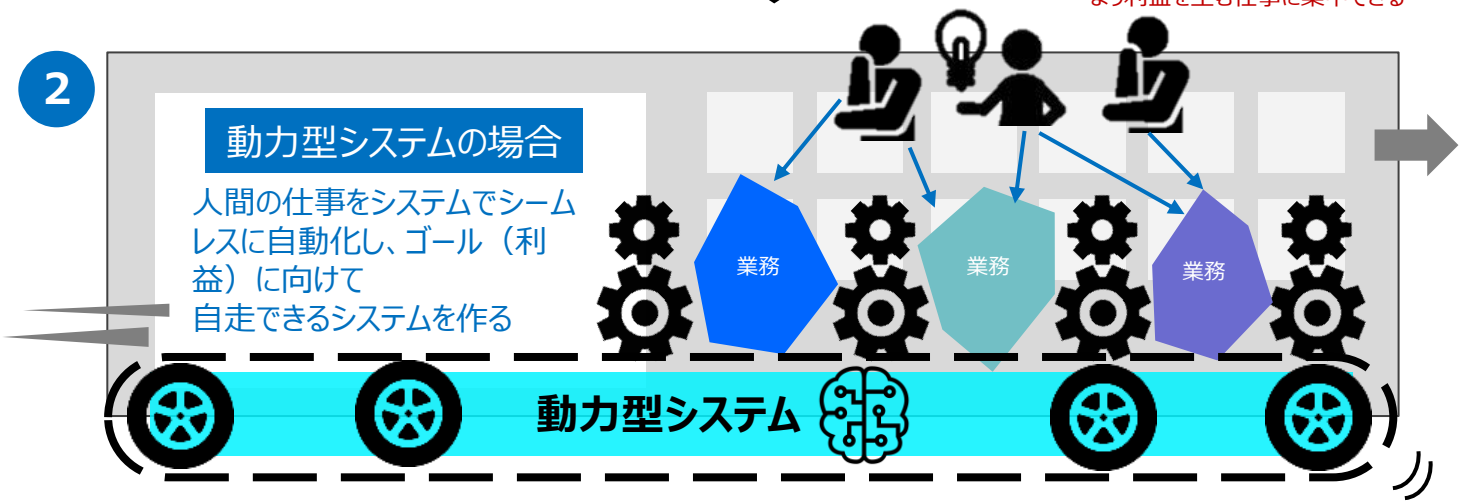


人間はより少ない人数で
より利益を生む仕事に集中できる

2

動力型システムの場合

人間の仕事をシステムでシームレスに自動化し、ゴール（利益）に向けて
自走できるシステムを作る



システムは作って
終わりじゃない！

先の読めない時代

変化に対応し、生き残るために、
定期的なシステムの見直し・更新が必要

3

システムの
メンテナンスと
アップデート

環境の変化や事業の変化に
あわせて仕組みを育てる

IT化のお悩み、ご相談ください！

ご相談
無料！

「ITわからない」でも大丈夫！
私たちがゼロから丁寧にヒアリングします！

TEL：03-6907-3904
info@baisoku.co.jp　https://baisoku.co.jp

株式会社BAISOKU
BAISOKU

動力型システムを経営の「土台」とする　IT思考経営

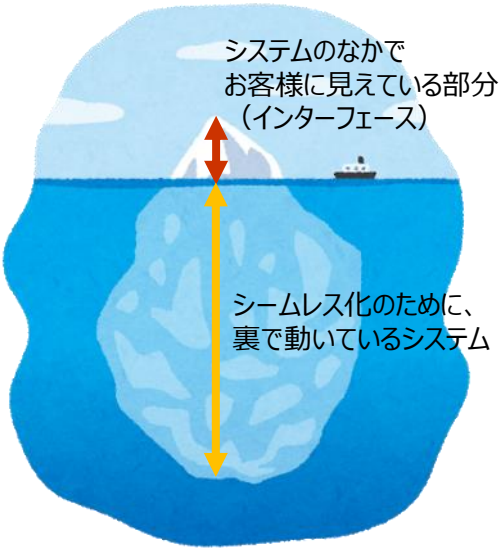
会社の本当のゴール＝利益にたどり着くために

1　従来の企業の仕組みの問題

これまで、日本の企業のIT化は、個人のExcelや「〇〇管理システム」など、各々の用途に特化したツール系システムを導入するだけで精いっぱいでした。
しかし、ツール型システムの活用は、一見個々の業務を効率化しているように見えて、結局は、細切れになった「業務と業務の間」を人間が補完して、やっと成り立っている状態です。
このとき、会社を前に進める「動力」は「人（人材）」であり、属人的な体制となっています。組織を支える人材が退職したり、人手不足に陥れば、業務は前に進みません。
また、組織の人材がそれぞれのやり方で、バラバラに走っていては、どんなにたくさんの時間働いても、なかなか会社は前に進みません。その結果、ゴール（＝利益）たどり着くこともできません。

2　動力型システムの場合

BAISOKUの「動力型システム」は、これまで人間が補完してきた個々の仕事を、システムでシームレスに自動化し、会社がゴール（利益）に向けて自走できる「土台」を作るという発想です。
「動力型システム」は、しだいに会社にとって必要不可欠なものとなり、多くの業務はシステムに沿って行うことで、効率化されます。人間は空いた時間を活用し、より利益につながる重要な業務にフォーカスできるようになります。
このような個々の会社のやり方にあったシステムは、従来、開発費用が高額で、大手企業にしかできないものでした。しかし現代では、クラウドの発展により、中小企業でも独自のシステムをコストを抑えて手に入れることができます。

3　システムのメンテナンスとアップデート

システムは作って終わりではありません。
IT技術の進化の速い現代、変化に対応し、継続的に事業を成長させるためには、作ったシステムを会社の状況に合わせて更新していく必要があります。
動力型システムは軌道に乗ると、あたかもインフラのように、あることが「当たり前」になります。これは、非常に良い状態ですが、表面的に見えるインターフェースの裏では、業務をシームレスに動かすための膨大なシステムが動いています。そのため、システムのアップデートと合わせて、メンテナンスも必要であることをご理解ください。
ただし、会社の「土台」であるシステムを、きちんと更新やメンテナンスをすることで、ゴール（利益）へ向かうスピードは一層増し、利益を上げられる可能性も高まります。